

# 未来の子供たち

2005 年、Paul Graham は YC インキュベーターを設立しました。彼は「採用は時代遅れ」という記事の中で次のように述べています：

現在、インターネット上の三大巨頭は Yahoo、Google、Microsoft です。これらの企業の創設者の平均年齢は 24 歳です。これで明らかなのは、大学院生でも成功する企業を立ち上げができるということです。大学院生ができるなら、なぜ学部生にはできないのでしょうか。

この 10 年間で多くのことを目の当たりにしてきました。今では、大学生の中にはできる人もいるのに、なぜ高校生の中にはできない人がいるのかと問うことができます。このような社会の変化は遅いですが、進行中です。インターネットが扉を開き、様々な知識が広がり、同時に同じ趣味を持つ人々が集まっています。高校時代から起業を始め、大学卒業時にはある程度の成果を上げることもあります。ある日、大学生が卒業したばかりなのに、22 歳の同世代がゼロから立ち上げた会社が上場するという話を聞いたら、驚くことでしょう。

各分野でも同様です。Thiel Fellowship の受賞者である 24、25 歳の若者たちの中には、最も若くして核融合を実現した人、海洋ゴミの清掃で成果を上げた人、OYO ホテルチェーンの共同創業者、LiDAR 上場企業 Luminar の共同創業者、ブロックチェーンの Vitalik Buterin (V 神) などがあります。

年齢は決して問題ではありません。これらの成果を上げる上で最も重要なのは、物事そのものに対する情熱です。

今日の教育は、子供たちの興味を発展させ、インターネット上で最良の資料、最高の教師を見つけ、同じ趣味を持つ同世代の友人と出会うのを助け、子供たちが学ぶことを愛するように導くべきです。学ぶことを愛する子供の未来は明るいものです。

私が中学生の頃、インターネット上で自己成長に関するブログを読み、競技の金メダリストたちの功績に触れ、大いに励されました。今日の小学生たちも、インターネットを通じて同じような刺激を受けています。多くの小学生がゲームに夢中になる一方で、ゲームの作り方に興味を持ち、インターネットで資料を探して学び始める子もいることでしょう。

学校の若い先生たちの全体的なレベルもますます高くなっています。先生、科目、クラスメートを選ぶ余地はほとんどありません。全体として以前より良くなっているとはいえ、もし頻繁に叱責する先生、好きではない科目、横暴なクラスメートに遭遇した場合、学校生活が辛いものになり、学習そのものに嫌悪感を抱く可能性があります。

学校には飛び級の選択肢があっても良いかもしれません。期末試験では、自分の学年の試験だけでなく、上の学年の試験も受けられるようにし、生徒に飛び級を奨励するのです。試験の成績が一定の条件を満たせば、飛び級が可能になります。このような選択肢があり、特に一部の同級生がそれを達成するのを見れば、より多くの生徒がそれに挑戦するよう鼓舞されるでしょう。

多くの子供たちが、現在の6年間の小学校を3年間で、また中学校と高校を3年間で修了できると信じています。

これにより、多くの校外の補習機関が学生を支援する形で誕生するかもしれません。これは良いことだと考えられます。なぜなら、試験重視の教育がいかに脆弱であるかを目の当たりにする可能性があるからです。

徐々に、多くの学生が6年で小中学校を修了し、7年で修了する学生もいれば、9年かかる学生もいます。学生たちのパフォーマンスはますます驚異的になっています。中には4年で修了すると信じている人もいます。それは10歳です。言うまでもなく驚くべきことですが、3歳から10歳までの7年間、読書と学習を愛する子供は、インターネットを利用してそれだけの知識を学ぶことができます。重要なのは、試験に必要な知識は実はそれほど多くないということです。同時に、市場では、多くの人が2年で他の人が10年かけて稼ぐ給料を稼いでいます。

何年も後になって、人々は現在の教育システムの遅れに気づくでしょう。小学校と中学校、それは12年の歳月です。生徒たちはここで立ち止まる必要はなく、順を追って一年一年学校に通う必要はありません。

これにより、全体的な進歩がもたらされるでしょう。野心に燃える14、15歳の少年少女たちが、ネット上で同世代の王俊凱たちを見て、羨望の眼差しを向けるのは当然です。なぜ彼らは教室で学ぶ必要がないのかと。同時に、少数の者が競争を経て推薦入学を勝ち取ったり、一部の親が子供のために飛び級を調整したりする特権を享受するよりも、全ての学生が同じ待遇を受けるべきです。その日が来れば、私たちは子供たちにこう言えるでしょう。「子供たちよ、君たちは自由だ。勤勉で学ぶ意欲があれば、成績を上げて飛び級できるんだよ」と。

社会において、少数の人々が莫大な富を生み出しています。しかし、このように価値を創造してお金を稼ぐことは、私たちが奨励すべきことです。10歳で小中学校を終え、3Dゲームの起業を始め、インターネットで多くのことを学び、20歳で会社を上場させ、資産1億円を築いた人を、私たちは称賛すべきです。彼はもう王俊凱たちを羨む必要はありません。

国有企業、政府、学校、研究所などの機関は学歴を重視し、多くの大企業も学歴を重視します。留学を申請する際も、学位は重要な要素です。したがって、高校や大学を中退して起業したり、自分のプロジェクトに取り組んだりすることは、将来の選択肢を狭める可能性があります。しかし、飛び級制度があれば、これらの問題はもはや問題ではなくなります。

子供たちは早い段階で競争の激しさを知ることができます。見てください、私の同級生はたった2年で小学校を終えましたが、私はまだ苦労しています。しかし、これは野心のある子供にとっては良いことです。大学入試の結果が出て、自分が何万人もの中にいることを知り、絶望するまで待つ必要はありません。こんなに多くの人がいるのか、小学校や中学校で一番だったことが何でもないのか。山の外には山があり、人の上には人がいるのだと。

このような仕組みは、現実の社会により近いものです。社会に出ると、私たちと競争して収入を

得るのは、同世代の人々ではなく、すべての大人たちです。子どもたちに早い段階で、将来は上級生と同じ職場で面接を受け、自分が立ち上げた会社が先輩たちの会社と競争することを知らせるることは、良いことです。競争は人を進歩させますし、一部の子どもたちにとっては、自分より優れた人から学ぶ機会にもなります。

親心を込めた親たちは、子供たちに多様な技能を習得させ、必死に働いて大都市の学区房を購入し、より良い教育を受けさせ、清華大学や北京大学を卒業した教師に教えてもらおうとします。一方、三線・四線の小都市の子供たちはそれほど幸運ではないように見えます。しかし、飛び級制度が導入され、インターネットが普及したこと、三線・四線都市の学習意欲のある子供たちは、小学校を3年で卒業し、地元の最高の中學に進学することで、裕福な家庭の子供たちと競争する助けになるかもしれません。

中国でも Theil Fellowship のような奨学金を設立し、20歳以下の若者が自分たちの狂気じみた夢を追いかけることを奨励できるかもしれません。中国では、雷軍、陸奇、馬化騰、張一鳴、王興、朱嘯虎といった影響力のある起業家や投資家が発起人となる必要があるでしょう。アメリカの子供たちにできることは、中国の子供たちにもできるはずです。インターネット上で自らこの奨学金に応募する子供たちは、将来きっと素晴らしい成果を上げるでしょう。5年後、もし彼らの中から非常に優れた成績を収める者が現れれば、それはどれほど人々を勇気づけることでしょうか。中国にも20代で核融合を実現する若者が現れるべきです。狂気のイーロン・マスクが多く起業家を鼓舞したように、中国の若きマスクたち多くの若者を鼓舞するでしょう。

未来はすでに到来している、ただ均等に分布していないだけだ。若者たちは私たちを驚かせるだろう。

技術の進歩は、誰もが恩恵を受けるものです。若者の優秀さに不安を感じる必要はおそらくないでしょう。起業が失敗するのは、通常競争相手のせいではなく、ターゲットユーザーに価値を提供できなかったからです。失業するのは、通常他の人が優秀だからではなく、現在の社会が必要とするスキルを習得していないからです。

16歳の少年少女が核分裂を起こし、独立した開発者として活動し、オープンソースプロジェクトを作り、小型ロケットを製作し、科学普及のインフルエンサーとして活躍し、研究を行い論文を執筆するような社会では、何が起こるでしょうか。

1. **技術革新の加速:** 若い世代が早くから高度な技術に触れ、それを活用することで、技術革新が急速に進むでしょう。彼らの創造性と柔軟な思考が、新しいアイデアや製品を次々と生み出す原動力となるでしょう。
2. **教育の変革:** 従来の教育システムが大きく変わる可能性があります。学校は、より実践的でプロジェクトベースの学習を重視し、学生が早くから専門的なスキルを身につけられるようになるでしょう。

3. **社会の多様性と包摂性の向上:** 若い世代が多様な分野で活躍することで、社会全体がより多様性を受け入れ、包摂的になるでしょう。年齢や経験に関係なく、誰でも自分の能力を発揮できる環境が整うでしょう。
4. **倫理的・法的な課題の増加:** 若い世代が高度な技術を扱うことで、倫理的・法的な問題が増える可能性があります。例えば、核分裂のような危険な技術を扱う際の規制や、若い開発者が作った製品の責任問題などが挙げられます。
5. **経済構造の変化:** 若い世代が早くから起業し、独立した開発者として活躍することで、経済構造が変化するでしょう。従来の企業モデルが変わり、よりフラットで柔軟な組織形態が主流になるかもしれません。
6. **情報の民主化:** 若い世代が科学や技術の知識を広めることで、情報がより民主化されるでしょう。誰でもアクセスできるオープンソースプロジェクトや、分かりやすい科学解説が増えることで、一般の人々の科学リテラシーが向上するでしょう。
7. **社会的な期待とプレッシャー:** 若い世代が早くから大きな成果を上げることで、社会全体が彼らに高い期待を寄せるようになるでしょう。しかし、その一方で、彼らには大きなプレッシャーがかかる可能性もあります。
8. **新しいリーダーシップの形:** 若い世代がリーダーシップを発揮することで、新しいリーダーシップの形が生まれるでしょう。従来のトップダウン型のリーダーシップではなく、より協力的でオープンなリーダーシップが主流になるかもしれません。

このような社会では、若い世代が持つ可能性が最大限に引き出され、社会全体がよりダイナミックで進化的な方向に進むでしょう。しかし、それと同時に、新しい課題や問題も生まれることになるでしょう。

10歳の子供たちがプログラミング、光学、自動運転、機械、電子、材料などに興味を持ち、インターネットで情報を見つけ、多くのブロガーをフォローし、同じ興味を持つ友達を作るようになると、社会はどのように変化するでしょうか。

現代の知識は一見すると膨大に見えますが、その本質的な部分はそれほど増えていません。そして、知識というものは、自ら学び、自ら考えることで初めて頭に入るものです。インターネットがあるということは、次世代の人々が最も優れた前世代から学べることを意味します。過去の科学者から学ぶこともでき、ソーシャルネットワークで同じ趣味を持つ人々を見つけて長期的に交流することも可能です。

大人たちが過去の十年や百年の間に成し遂げられなかつたことを何度も達成してきたように、未来の子供たちもまた、過去の子供たちができなかつたことを成し遂げることができると信じています。子供たちよ、自分自身を信じてください。あなたたちならできるのです。

## 拡張読書

1. 採用は時代遅れ。

<https://paulgraham.com/hiring.html>

2. Paul Graham: Airbnb の創設者のような人々

3. 研究者と創業者。

<https://blog.samaltman.com/researchers-and-founders>

4. 億万長者は築く。

<http://www.paulgraham.com/ace.html>

5. 知能への疑惑

<https://www.yinwang.org/blog-cn/2020/03/23/wisdom-of-intelligence>

6. 学習の知恵

<https://www.yinwang.org/blog-cn/2019/07/12/learning-philosophy>

7. WeChat インターネットでの一般人の起業